

C-60 本邦農民服飾に関する研究 — 衣料 第四報 —
和洋女大文家政 鷹司綸子

目的 近世における農民服飾文化を知る上にはその以前の農民文化の跡づけをしなければならぬ。その爲に求め得る残存資料から被服文化を抽出するのが本研究の目的である。

方法 寺社・大名家等の古文書、及び地方誌・地方文書等の文獻に検討を加える

結果 室町時代末期・殊に安土桃山時代は近世への胎動期であるが昨年特に室町時代前期を中心に貢租の面から織維材料の生産面を究明したが本年は安土桃山時代を中心として検討を加え、村々より離脱するより地に定着した農民層出身の商人とそれによる産業・流通の発達、反面大岡検地などによるきびしい年貢負担などのため落差を南く下層農民の姿を考究した。